

長野県におけるスモン患者の現状

関島 良樹 (信州大学医学部附属病院脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)

小平 農 (信州大学医学部附属病院脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)

研究要旨

長野県ではスモン患者の希望により訪問検診を実施しており、高いスモン検診受診率につながっている。過去3年間の検討ではスモン患者において最近10年間で Barthel Index の低下や歩行障害の進行が目立つようになり、年齢の上昇、身体機能の低下 (Barthel Index の低下)、歩行障害、下肢筋力低下が訪問検診を選択する要因になっていることが明らかとなった。本年度は当県のスモン患者の現状を把握するとともに、脊椎疾患や四肢関節疾患などの整形外科疾患と Barthel Index および歩行障害の関連につき検討した。本年度のスモン検診受診率は61% (20/33名) であり、検診受診者の平均年齢は78.9歳であった。検診の実施形態は、訪問13名、非訪問7名 (保健所4名、病院3名) であり、訪問検診率は65%と平成29年度 (48%)、平成30年度 (58%) と比較し上昇していた。訪問検診患者は非訪問検診患者と比較し Barthel Index の低下が目立ち (訪問: 70 ± 25 、非訪問 91 ± 25)、独歩不能な患者が多かった (訪問13名中10名、非訪問7名中1名独歩不能)。スモン患者の2/3程度においてそれぞれ脊椎疾患、四肢関節疾患を併発し、特に腰椎病変 (腰椎症、腰部脊柱管狭窄症)、膝関節症をそれぞれ1/3程度の患者が併発していた。全スモン患者のうち18名 (90%) で何らかの整形外科疾患を併発しており、現在の症状へ影響している例も多く、特に脊椎疾患を併発している症例で Barthel Index 低下例や独歩不能例が多い傾向にあった。スモン発症から長期経過したスモン患者においては整形外科疾患の併発に留意し、ADL や歩行機能の維持に努める必要があると考えられる。

A. 研究目的

長野県ではスモン患者の希望により訪問検診を実施しており、高いスモン検診受診率につながっている。過去3年間の検討ではスモン患者において最近10年間で Barthel Index の低下や歩行障害の進行が目立つようになり、年齢の上昇、身体機能の低下 (Barthel Index の低下)、歩行障害、下肢筋力低下が訪問検診を選択する要因になっていることが明らかとなった^{1,2)}。一方、下肢筋力は過去10年間で著変がなかったことから、加齢や整形外科的な問題などが Barthel Index の低下、歩行障害が進行につながっている可能性が考慮された³⁾。本年度は当県のスモン患者の現状を把握するとともに、脊椎疾患や四肢関節疾患などの整形外

科疾患と Barthel Index および歩行障害の関連につき検討する。

B. 研究方法

長野県において本年度スモン検診を受けた患者につき、スモン患者現状調査個人票をもとにスモン患者の現状を把握する。また、スモン患者現状調査個人票をもとに脊椎疾患や四肢関節疾患などの整形外科疾患と Barthel Index および歩行障害の関連につき検討した。

C. 研究結果

令和元年度はスモン患者在住の9医療圏につき各1日を割り当て、スモン検診を実施した。全スモン患者

表1 長野県におけるスモン検診の推移

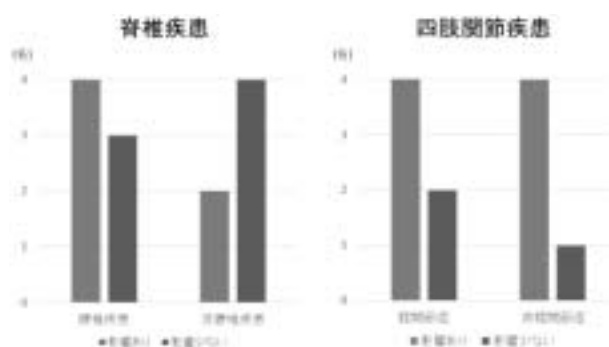
	平成29年	平成30年	令和元年
全スモン患者数	35名	34名	33名
検診受診患者数	19名	19名	20名
検診受診率	54%	56%	61%
訪問検診	9名	11名	13名
非訪問検診	10名	8名	7名
訪問検診率	48%	58%	65%
検診受診患者平均年齢	79.2歳	79.5歳	78.9歳



- ✓スモン患者の2/3程度は脊椎疾患、四肢関節疾患を併発
- ✓腰椎病変、膝関節症の併発を1/3程度の患者に認める
- ✓脊椎疾患、四肢関節疾患を併発していないのは2名のみ

図1 スモン患者における整形外科疾患の併発

33名の中、検診受診者は20名（男性9名、女性11名）で検診受診率は61%であり、平成30年度の受診率56%と同等に高い検診受診率を維持していた（表1）。検診受診者の平均年齢は78.9歳で平成30年度（79.5歳）とほぼ同等であった（表1）。検診の実施形態は訪問13名（自宅10名、入所施設2名、入院中の病院1名）、非訪問7名（保健所4名、病院外来3名）であり、訪問検診率は65%で平成29年度48%、平成30年度58%と継続的に上昇していた（表1）。訪問検診患者は非訪問検診患者と比較し Barthel Index の低下が目立ち（訪問：70±25、非訪問91±25）、独歩不能な患者が多かった（訪問13名中10名、非訪問7名中1名）。スモン患者の2/3程度においてそれぞれ脊椎疾患、四肢関節疾患を併発し（図1）、特に腰椎病変（腰椎症、腰部脊柱管狭窄症）、膝関節症をそれぞれ1/3程度の患者が併発していた。全スモン患者のうち18名（90%）で何らかの整形外科疾患を併発して



半数以上で整形外科疾患が現在の症状に影響
図2 整形外科疾患の現在の症状への影響

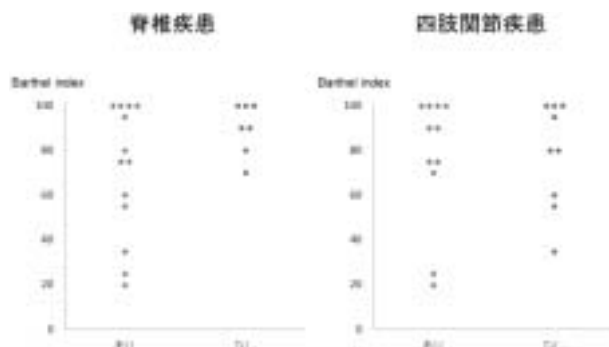


図3 整形外科疾患の合併と Barthel index

表2 整形外科疾患と歩行障害

	脊椎疾患あり	脊椎疾患なし	差
独歩	4	5	p=0.16
独歩不能	9	2	
	四肢関節疾患あり	四肢関節疾患なし	差
独歩	5	4	p=1.00
独歩不能	6	5	

り、現在の症状へ影響している例も多かった（図2）。特に脊椎疾患を併発している症例で Barthel Index 低下例（図3）や独歩不能例（表2）が多い傾向にあった。

D. 考察

長野県のスモン患者においては Barthel Index の低下、歩行障害の進行などのため、訪問検診を選択する

患者がますます増えてきている。スモン患者の大半が脊椎疾患や四肢関節症などの整形外科的疾患を併発し、特に腰椎病変や膝関節症を併発している患者が多い。脊椎疾患を中心に現在の症状に影響を与えている場合も多く、スモン患者においては整形外科疾患の併発に注意が必要である。

E. 結論

長野県ではスモン患者数は減少してきているが、訪問検診を積極的に行うことで高い検診率を保っている。加齢、身体機能障害や歩行障害の進行などのため選択するスモン患者の割合が増加している。現在、スモン患者の大半が脊椎疾患や四肢関節症などの整形外科的疾患を併発し、脊椎疾患を中心に現在の症状に影響している場合も多い。スモン患者においては整形外科疾患の併発に留意し、ADL や歩行機能の維持に努める必要があると考えられる。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 池田修一，小平農：スモン患者の高齢化に伴う長野県のスモン検診のあり方。厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）スモンに関する調査研究。平成 28 年度総括・分担研究報告書。P 93-95.
- 2) 池田修一，小平農：長野県におけるスモン検診の現状。厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）スモンに関する調査研究。平成 29 年度総括・分担研究報告書。P 100-102.
- 3) 関島良樹，小平農：長野県スモン患者の 10 年間の推移と検診形態。厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）スモンに関する調査研究。平成 30 年度総括・分担研究報告書。P 88-90.